

4. 重症心身障害者（児）施策の推進

（1）療養介護事業所等の整備

【背景】

長期の入院による医療的ケアとともに、常時の介護を必要とする重症心身障害者（児）などに対して福祉サービスを提供する医療型障害者・児入所施設は、市内に1箇所あるが、常に満床状態で、入所待ちがある状態であるため、市外の医療型障害者・児入所施設を利用している障害者児も相当数いる。

医療技術の進歩にとともない、NICU（新生児集中治療室）などに長期間入院した後も引き続き医療的ケアを必要とする障害児（医療的ケア児）が増加しており、医療型障害者・児入所施設の入所待ちする障害者（児）も増加していくと考えられている。

【事業概要】（令和元年度予算額 601,213 千円）

平成30年12月で指定管理が終了した神戸市立老人健康センター（神戸市中央区日暮通5丁目5番8号）のスペースを転活用し、医療型障害者・児入所施設に必要な改修を行う。

整備終了後に、民間事業者により医療型障害者・児入所施設の運営を行う。

【事業効果・目標数値】

市内の医療型障害者・児入所施設の入所待ちを緩和し、医療的ケアを必要とする重症心身障害者（児）の市内の施設において受け入れの増加を図る。

【事業スケジュール】

平成30年度～令和元年度 基本設計・実施設計

令和2年度～ 工事着工

整備終了後、事業開始

（2）災害時における重度障害児者対応の強化

【背景】

重度障害児者については、現在、にこにこハウス医療福祉センター（社会福祉法人芳友）に委託している神戸市重度障害児者医療福祉コーディネート事業で、緊急時の対応を見据えた医療的ケア等の情報登録を進めている（H31.4月末時点の登録者数281名）

医療的ケアを要する重度障害児者は、停電発生時には、人工呼吸器やたんの吸引等で使用する電源が確保された場所に避難する必要があるため、個別避難計画の策定が喫緊の課題となっている。

【事業概要】（令和元年度予算額 12,667 千円）

○重度障害時者医療福祉コーディネート事業（7,322 千円）

市内の重症心身障害児者の医療的ケア等の情報を専用システムに登録。その情報をもとにコーディネーターが医療機関と連携することで、重症心身障害児者が、かかりつけ医以外の病院に緊急受診する際等に、適切な医療を受けられる体制を整備。

○災害時における重度障害児者対応の強化（5,345千円）

市内の在宅重症心身障害児者（882名）のうち、医療的ケアが必要とされる推定約600名について、迅速に医療等の情報登録と、個別避難計画の策定を行うとともに、支援計画に記載された医療機関等への協力依頼や、災害発生時の避難所への事前連絡、医療機関との連絡調整等を行う。

【事業効果】

平時より重症心身障害児者の医療的ケア等の情報を把握・管理することにより、災害時においても、関係機関との情報共有に有効活用し、適切かつ迅速な対応が可能な支援体制を構築する。

【事業スケジュール】

	平成30年度末	平成31年度末	令和2年度末	令和3年9月末
情報登録書作成数	250件	600件	—	—
個別避難計画策定 予定数（累計）	—	150件	450件	600件